

Aさん（高次脳機能障害・新規就労①）

①機能回復に取り組もう（外来通院・ラポール：医学的リハビリテーション・体力作り）

Aさんは交通事故で脳に損傷を受け、高次脳機能障害が後遺症として残りました。退院後、まずは機能向上をめざし、リハビリセンターの外来通院で、OTや心理士の認知リハビリテーションを受けました。疲れやすくなっていたため、ラポールで体育指導員に相談しながら、運動する時間を定期的に持つようにしました。

②自分の働く力を知ろう（就労支援課：職業相談・職能評価）

数か月経ち、週3回程度、外に出られるようになりました。治療中に休職期限が終わり、勤めていた会社は退職となりました。就労支援課で職業相談・職能評価を行い、就職に向けたトレーニングを始めようと思いました。それまでと同じ事務職での就職を考えていましたが、職能評価で見落としによるミスが多く出ていたため、正確性の向上が課題だと分かりました。

③代償手段を身につけよう（就労支援課：通所プログラム）

職能評価の結果をもとに、事務作業を中心に行い、見直しの習慣がつくことで作業の正確性が向上しました。職場見学を行い、施設とは違う緊張感の中で、仕事の感覚を取り戻してきました。同時処理が難しいこと、スピードの求められる仕事は焦りからミスが出やすいことがわかりました。『仕事の工夫』研究会に参加し、ミスを軽減する方法を皆で話し合いました。ミスを減らすために、他の人が様々な工夫をしていることを知り、Aさんもスマートフォンを活用した良い方法を見つけることができました。また職コミ会に参加し、配慮してほしいことを周りの人にうまく伝え、職場で良い人間関係を作るために何が必要か、確認ができました。

④自分の力を最大限発揮して働こう（就労支援課：就職活動）

ハローワークに登録し、紹介された求人に応募しました。面接には就労支援課職員も同席し、Aさんの自己PRを客観的な立場でバックアップしました。結果、就職が決定しました。職場では正確な仕事を心掛けメモや見直しをきちんと行うAさんの人柄が、高く評価されています。